

浜松市保健環境研究所だより

第19号 「CSF（豚コレラ）について」

2019. 12

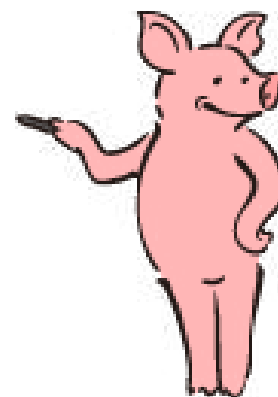
平成30年9月に、岐阜県の養豚場で約26年ぶりにCSF（Classical swine fever: 豚コレラ）の発生が確認されました。その後、1府8県で発生が広がっています。また、静岡県を含む周辺の県では野生イノシシの感染も確認されています。

目次

CSF（豚コレラ）とは？	1ページ
私たちにも感染するの？	2ページ
対策方法は？	2ページ
食肉衛生検査所での対応は？	2ページ

CSF（豚コレラ）とは？

CSF ウイルス（フラビウイルス科ペスチウイルス属）による、ブタやイノシシの感染症です。ウイルスに感染すると、下痢や発熱などの症状を示します。死亡率が高く、ウイルスの伝染力が強いという特徴があり、治療法はありません。感染したブタは唾液や糞尿などにウイルスを排出し、そのブタや汚染物と接触することで感染が拡大します。また、感染した野生イノシシや、野生動物（ネズミ、カラスなど）を介してウイルスが拡散されている可能性も考えられます。家畜伝染病予防法において家畜伝染病^{*}に指定されており、農場等で発生した場合は飼養されている豚全頭の殺処分が行われ、埋却または焼却されます。



日本では、明治20年に初めて発生が確認されました。昭和44年にワクチンが開発されて以来、発生が激減し、平成4年を最後に発生は確認されていませんでした。海外では中国や東南アジアなどの世界各国で発生しています。

※ 家畜伝染病

家畜の伝染病のうち、その病性や発生状況、予防・治療法の有無、畜産情勢等を勘案し、発生による蔓延を防止するために殺処分等の強力な措置を必要とするもの。
口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど28疾病が指定されています。

私たちにも感染するの？

ブタやイノシシの病気であり、ヒトへ感染することはありません。

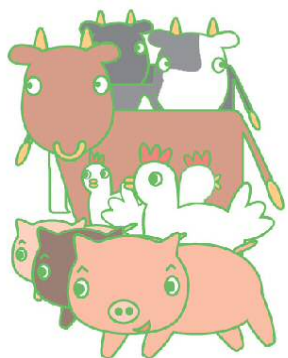
万が一、CSF に感染したブタやイノシシの肉や肉製品を食べても、人体に影響はありません。

対策方法は？

発生が確認されてから、農場での衛生管理の徹底や、消毒ポイント設置、イノシシの侵入防護柵の設置、野生イノシシへの経口ワクチン散布などを行ってきました。しかし、感染が拡大しており、防御対策を行ってもブタへの感染防止が困難であると判断された地域において、ブタを対象としてワクチン接種を令和元年10月から開始しました。静岡県でも、野生イノシシでの発生が確認されたため、11月からブタへのワクチン接種を行っています。

CSF ワクチンには、CSF を引き起こさないように病原性を弱くした CSF ウイルスが含まれています。ワクチンを接種されたブタは、体内で CSF に対する免疫を獲得します。免疫を獲得すると、ワクチンに含まれるウイルスが消失します。そのため、ワクチンに含まれている CSF ウイルスが豚肉に残ることはないと考えられます。

食肉衛生検査所での対応は？



浜松市食肉衛生検査所では、と畜検査員（獣医師）が、主にウシやブタの肉や内臓が食用に適するものかどうか一頭ずつ検査しています。

（2015年 第11号参照）

検査の結果、CSF を疑った場合には、家畜保健衛生所に連絡し、CSF ウイルス検査をします。CSF であると確認された肉や内臓等は検査不合格となり廃棄されるため、市場に出回ることはありません。

豆知識

ASF（African swine fever:アフリカ豚コレラ）

CSF と症状は似ていますが、原因のウイルス（アスファウイルス科アスファウイルス属）が異なり、違う病気です。ASF もヒトには感染しません。CSF はワクチンがありますが、ASF はワクチンがありません。中国や韓国で発生していることから、国内へのウイルス侵入リスクが高まっており、侵入防止対策の徹底が求められています。

（参考） 農林水産省ホームページ